

【第1回ビジョン懇談会の振り返り】 いただいた御意見に対する検討結果等について

	ご意見	検討結果等	ビジョン案 該当ページ
1	鳥獣被害に関する出前講座の市外の参加校が江別市 1 校のみで参加率が低い。市外の参加校を増やしていくための普及促進が必要。	小中学校向け出前講座を連携市町村に広げる方向で調整しました。	P74
2	鳥獣被害について、自治体だけの取組ではなく、民間主体の取組もある。取組の実績を反映するのであれば、民間の取組データも活用した方が良い。 自治体間連携により、例えば熊の出没した圏域内の GPS 情報をマッピングして、住民や自治体が随時把握できる仕組みを作ってみてはどうか。	民間主体の取組を一元的に把握はしておらず、取組例の一部を実績として報告するにあたっては、考え方の違う団体等もあり、取り扱いが難しいと考えています。 熊出没情報については、現在は近隣市町村にメール・電話で情報提供しています（地図座標も合わせて）。連携市町村共通の情報サイトの構築については、現在各市町村が運用しているシステムが異なっており、統合するのは今後の課題と認識しています。 なお、「鳥獣対策等に関する取組の推進」につきましては、ヒグマの DNA 検査を連携市町村に拡大し実施する予定です。	P74
3	大学卒業後、首都圏に就職した人も 30 歳前後には北海道に戻りたい人は多いというデータがあり、実際に 30 歳を超えて戻ってきている人もいますので、29～35 歳の動態も調べてはどうか。	30 歳以降の道外からの転入超過を確認しましたので、重点施策案の検討に反映しました。	P49
4	SWOT 分析に関連して、鳥獣被害というのは弱みにもなり、強みにもなると考えている。200 万人都市のすぐ近くに、国内最大の哺乳類であるヒグマが生息しているというのは世界的にも稀有であると思う。	都心部と豊かな自然が近接していることは圏域の特徴であると認識しています。SWOT 分析では、この点にも触れつつ、弱み・脅威として必要となる取組として整理しました。	P48～49
5	6 つの重要施策のすべてに関係するものとして脱炭素の取組はとても大切。札幌は研究機関などが集積しているので、産業との連携（産学官金の連携）も重要	取組の構築にあたっては産官学連携を意識するよう努めていきます。 なお、「脱炭素に向けた取組の推進」については、国の中央環境審議会委員等の有識者を講師に迎えた自治体向け勉強会や、住宅関連団体と連携した研修会の開催、民間事業者による「再エネ共同購入プロジェクト」に参画するなど、産学官連携を意識した取組を進めていきます。	P73
6	第 1 期ビジョンで目標値を達成できていない連携事業について、第 2 期ビジョンではどのように考えるのか。	1 期で達成できなかった事業については、コロナの影響で人が集まらなかったものを除き、事業内容や目標値を再検討しました。	(※) 下記
7	内部環境の強み弱みはどこと比べてなのか。例えば、道内や道外の他の圏域と比べてなのか。SWOT 分析を精緻化し、機会×強みを活かした施策を考えるなどのクロス分析も考慮するべき。	SWOT の内容を精緻化しクロス分析を取り入れ再整理しました。なお、強み弱みは、相対評価として判断したものと絶対評価として判断したものがあります。	P44～49

※見直しをした事業

- 目標値の再設定・・・MICE 誘致の推進 (P60)、森林整備等に関する取組の推進 (P74)、オープンデータプラットフォームの共同利用 (P76)、
「札幌 UI ターン就職センター」の広域的利用 (P80)、道内における関係人口の創出に向けた取組の推進 (P80)
事業内容の見直し・・・デジタル技術を活用した住民サービスの向上に向けた取組の推進 (P76)、自治体行政のスマート化に関する検討 (P83)